ICT 海外ボランティア会会報

No. 26　（旧、NTTOBSV 会会報）

2011 年 8 月 10 日（水）

Home page　：http://sv.nttob.org/
e-mail　　：sv@info.nttob.org

目次

◆ 巻頭言
海外で活躍できる人材育成
ＮＰＯ地雷絶滅日本キャンペーン代表　北川泰弘　氏

◆ 特別寄稿
真藤さんの教え（１）
本会顧問　石井　孝　氏

◆現地便り
ウズベキスタン共和国から・コンピュータプログラム指導
青年海外協力隊　中川敦司　氏

◆ 本会会員リレー寄稿（第１０回）
テランに魅せられて
本会幹事　石井誠一　氏

◆ 最近のタイ事情報告
タイ訪問記
本会事務局　加藤　隆　氏

◆ＪＩＣＡ「メールマガジン配信登録」のおすすめ
事務局

巻頭言

海外で活躍できる人材育成

NPO 地雷廃絶日本キャンペーン 代表
元日本情報通信コンサルティング(株)常務取締役　北川泰弘

ICT の日本語訳は「情報通信技術」ですが、情報関連の専門家派遣要請はあるが、通信関連の派遣要請が少なくなったとのことです。しかし、ICT を支えているのは公衆通信網で、それが破壊されると情報通信の根幹が乱れることは東北大震災の結果で見る通りです。公衆電気通信網は ICT という概念ができる前からありました。当時は電話と電報のサービスでした。私たち通信技術者は、公衆電気通信網は：

１）誰でも、２）何時でも、3）何処でも、４）適正価格で

通信サービスを提供出来ること、と教えられてきました。

すなわち、想定外の天災があっても、上の 4 条件を満たす通信網を提供するのが公衆通信業者の役目です。所が ICT サービスは民営化され、投資効率が重視されるようになりました。極端には「ムーアの法則」なる概念が導入され、5 年以上故障しない機器は過剰品質であり、5 年以上も故障させない保全は過剰保全であると言う人がいるそうです。米国は 3 年と言っているそうです。その影響で、NTT には前記の １)、２)、３)、４）を満たす公衆通信網を設計できる技術者がいなくなったのではないかと思われます。

翻って、私が 1954 年に NTT を退職後に奉職した日本通信協力㈱（現、NTC）は、NTT の公衆電気通信網の近代化、拡充の為の施設設計に貢献した技術者が大勢おりました。NTT に残った多くの技術者が管理者に登用され、電話局長等になって労働問題に忙殺され技術を忘れた反面、NTC の技術者は NTT から委託される施設設計業務を続け、1977 年のピーク以降 NTT からの注文が減少してからは、途上国で電気通信網のプロジェクトを掘り起こし、NTT の施設設計で磨いた技術を海外で活用して来ました。つまり、公衆電気通信網プロジェクトを発掘し、施設設計し、工事管理する技術が NTC に温存されたのです。その後、NTC の海外活動からの撤退により、これらの技術者は関連会社に移って活動を続けています。定年退職しても技術が身についているので、SV として公衆電気通信網を含む ICT プロジェクトの立ち上げ、実施に必須な技術者として重用され、活動をしている人たちもいます。

これに似た例として、BHN テレコム支援協議会では、途上国、災害の被災地の如く、インフラが欠如している環境で緊急通信サービスを立ち上げるには、NTT 出身者よりも、メーカー出身者の方が実力を発揮しているようです。では、NTT 出身者には出番はないのでしょうか？　大いにあります。NTT の技術分野で働き続けた方は NTC やメーカーの OB に伍して現場で活躍出来ます。早くから管理部門に入った方は物事を大局的に観察し、対処する力が養われました。その一例が定年後に海外の大学で ICT の講義を続けておる方がおります。ICT 海外ボランティア会の皆さんは、ICT を支えるものが公衆電気通信網であることを忘れないで、現役中に体得された知識、経験を生かして益々活躍を続けられるよう期待していま

す。

例としてあげました ICT 海外ボランティア会の加藤隆氏は、去る 7 月上旬に、5 年前にシニア・ボランティアとして派遣されたタイの国立ラチャモンコン工科大学で、恒例となった ICT に関する特別講義をされたということです。5 年前の講師に毎年特別講義をお願いするタイの大学も立派、進歩の速い ICT について勉強を続けられ、海外の学生に講義を続けておられることも立派と思いました。

特別寄稿

真藤さんの教え（１）

本会顧問　石井　孝

先般の拡大幹事会で、たまたま真藤さんのことに触れましたところ、熱気に溢れた民営化当初の職場と真藤さんの思い出に話が弾みました。真藤さんの業績は並大抵のものではありませんが、何かＮＴＴの中では、戸棚の奥深くにしまい込まれてしまったようで、大変心残りでなりません。

造船技術者としての業績は、前間氏の大著「世界制覇」に克明に残されて居ります。ＮＴＴにおける仕事についても、まとめて後世に残すべきではないかと思って居ります。ところで、当会における鈴木さん（トンガ王国、ＳＶ活躍中）に対する山下さん（派遣者支援部長）はじめ、後方支援の皆さんの奮闘ぶりを拝見し、思わず民営化当時の活気を彷彿として居ります。皆さんのご活躍に頭の下がる思いです。

以上のようなことが重なって、真藤さんの語録の中から、私自身の経験に重なるものについて、幾つかメモしてみました。黒字は真藤さんご自身のコメント、青字が私のメモです。

真藤語録“組織の動かし方、そのポイントは何か”

結局一言でいえば、自分でかんがえろということである。

大きな組織は小さな技術をベースに分化しているので、人間が組織に負ける危険性が多分にある。責任をとるという勇気の問題と重なって、組織の中の人間が非常に受け身になる。要するに習慣に従うことになって、それから逆に抜け出そういう自主性とか創造力とかが、どんどん落ちていく。

組織の中のある特定の人が期待するような動きを始めても、大きな組織の中に組み込まれて、そのうちにいや気がさしてしまう。皆考えるけれど、それを実行に移さなくては考えなかったのと同じである。

組織だから、組織のランクに応じていい考えは伏在しているが、それがなかなか実行の面

に出てこない。一人ひとりが考え出して実行してほしいが、それはなかなかできないので、組織上、上のランクの人間が自分の配下のいろいろな考え方を吸い上げて、それを何段かランクの上の権限で実行に移していく。その場合考えた人を起用して、その考えを生かしていく。いわゆる組織の力を使って組織の弊害をなくしていくという運営の仕方が、組織の動かし方の要諦である。

組織の中のアイデアなり意欲を、個人個人に実行させようというのは、組織の現実の姿では無理で、また実行しても労多くして非常に効果が少ない。したがって、その上のランクでそれを吸い上げて、その人間を使って、それを実行してゆくというやり方をすることである。

「組織の力を使って組織の弊害をなくしていく」これが、真藤さんのやり方の真骨頂である。しかし、これは真藤さんという優れた、そして強力なリーダーがあってのことである。

よきにつけ、あしきにつけ、伝統を持つ企業では、特殊な組織風土という執拗な根が張っており、これが、組織改革に対し強烈に抵抗する。

如何に強力な真藤さんであっても、地下を張りめぐる太い抵抗の根を一つ、一つ切り捌くご苦労は、察してあまりあるものがあった。徐々にではあったが、真藤さんの考えに心底から共振し、改革に身体を張るもの達が増え、改革もいよいよ軌道に乗ったかと思い始めた時に、真藤さんは、リクルート事件に捲き込まれ NTT を去ってしまわれた。

残根は未だ息の根を止めていなかった。組織は逆にまた振れ出したのである。人々は、知らず知らずのうちに、元の安易な道にもどり、「悪貨が良貨を駆逐する」例えの如く、改革を志したもの達は一人去り、また一人と姿を消していった。

組織は、常日ごろ、強力なエネルギーを使って秩序の改革・改善に努めなければ、何時の間にか荒れ放題に向かってしまう。熱力学の世界だけではない。「エントロピーは増大する」これが世の常なのであろうか。

現地便り

ウズベキスタンから・コンピュータプログラム指導

本会会員・青年海外協力隊　中川敦司

はじめに

株式会社ＮＴＴデータの中川敦司と申します。現在、特認休暇制度を利用し、コンピュータ技術の職種で青年海外協力隊に参加しています。任国は中央アジアのウズベキスタン共和国で、任期は２０１０年１月～２０１２年１月です。任務は、地方都市の国立大学でのプログラミング（C++、PHP、Java など）の指導です。

ウズベキスタン寸描

ウズベキスタンは、かつてソビエト連邦という超大国の一員だったこともあり、青年海外協力隊が派遣される国々の中では設備やインフラが整っているほうだと感じます。たまに停

電もあって不便なこともありますが、それほど支障にはなっていません。ただ、プログラミングの手法やインターネットの通信速度などＩＴのレベルに関しては、１０年前の日本に相当します。今後ウズベキスタンのＩＴがどういう方向に発展していくのか、その進化の道筋をすでに知っていて明確に示すことができるので、日本人ボランティアが派遣されていることの意義はあると思っています。

英語が通じない国なので、授業はロシア語またはウズベク語を使うことになります。やはり言葉が難しいため、頻繁に辞書を引いたり、絵を描いたりして、なんとか説明しているという状況です。

【写真 1】コンピューター教室での授業風景【写真 2】電子白板を使用し、PowerPoint のスライドで説明

ＮＴＴデータの経験と今後のことなど

東京で働いていたときは１０年間ずっと郵便貯金システムの開発に携わってきました。今はその経験を活かして、ウズベキスタンの人たちに「コンピューターを正しく使うことの楽しさ」を伝えようと思って活動に取り組んでいます。

私は、青年海外協力隊に応募しようと思い立った日からブログを書き続けています。日々の生活の様子について、詳しくはぜひこちらをご覧ください。

「世界も、自分も、変えるシゴト。」　http://braille.cocolog-nifty.com/

すでに１年半活動し、あと半年で任期満了となります。最近は、帰国後の生活のことを具体的に考える時間が増えてきました。帰国後は、また公共的なコンピューターシステムの開発の仕事を通じて、日本の復興のために働きたいと思っています。

ウズベキスタンのインターネット事情

職場はコンピューターが専門の大学ですが、予算が足りないため、教室や教員室にインターネット環境はありません。一般家庭にもパソコンは普及しておらず、繁華街のネットカフェ（料金：１時間４０円ぐらい）がよく利用されています。

また、ウズベキスタンでは政府によるインターネットの規制があり、一部のウェブサイトは閲覧できないようにアクセスが遮断されています。ただ、日本のウェブサイトはほとんど見ることができるので、日本人にとってその影響はあまり感じません。

ウズベキスタンでの主なインターネット接続の方法は、以下の通りです。

【ダイアルアップ】
速度：最大５６Kbps
料金：1時間あたり２０円
【ＡＤＳＬ】
速度：１２８Kbps～２Mbps
料金：従量制（月５００円～）、定額制（月６，０００円～６５，０００円）
【３Ｇ無線】
速度：最大６４Kbps
料金：１MB あたり３円
【ＷｉＭＡＸ】
速度：２５６Kbps～２Mbps
料金：従量制（月３，６００円～）、定額制（月５万円～３０万円）

本会会員リレー寄稿 第１０回

ラテンに魅せられて

本会幹事、ＳＶ・２０１１年二次隊パナマ派遣予定　　石井　誠一

１．はじめに

ＪＩＣＡ－ＳＶ（シニア海外ボランティア）として９月２６日から２年間、中米パナマへ派遣される予定の石井と申します。昨年３月末ＮＴＴグループを退職した後、１１月の秋募集に応募し今年２月に無事合格、指導課目は「通信網整備」、派遣国は「パナマ」と決定されました。配属先は「パナマ国家警察通信局」となる予定です。

当会入会のご挨拶として、派遣前の抱負や高い志を綴れず、悶々と書きあぐねていましたが、ようやくタイトルを「ラテンに魅せられて」と決め、昔話をすることとしました。お暑い中、笑って読み飛ばしていただければ幸いです。

２．自己紹介を兼ねて過去を振り返ってみれば

先日「通訳案内士」の研修の演習前段で「他己紹介」があり、元ＪＡＬ勤務のＫさんとペアになりました。事前打合せで「ご趣味は何ですか？」と聞かれ、「はい、僕の趣味は、旅行、特に海外旅行と、読書です」と答えました。ちなみに、スペイン語学科出でソムリエの資格をもつＫさんの趣味は、「テニスとワイン」でした。

昔を振り返ってみますと、現在までに通算５回、約１５年間の海外勤務をしましたが、そもそもの動機は「海外旅行」という趣味が高じたために過ぎなかったとも思えます。

尊敬するＮＴＴ元上司のＩさんは、情報通信関係者の前では、私のことを「元ＮＴＴブラジル社長の石井さんです」と親切に紹介してくださいます。

ポルトガル語を公用語とするブラジルと、スペイン語圏のチリの南米二カ国が、私の得意とする国です。チリやブラジルに赴任する前に、中米のグアテマラと北米のカナダで少し修行を積みましたので、その辺から話を始めることとします。

１）海外勤務修行その１：グアテマラ（ＪＩＣＡ個別長期専門家）

駆け出しは、１９８７年から二年半、ＪＩＣＡ専門家として、中米グアテマラの電気通信公社（ＧＵＡＴＥＬ）への派遣（指導課目は「電話網計画」）でした。以来約四半世紀の間、「常春の国、マヤ文明の国」グアテマラへは一度も訪問する機会がありませんでしたが、今般同じ中米のパナマに行くため、再訪の可能性が高く、楽しみにしております。

２）海外勤務修行その２：カナダ・ヴァンクーバーのＪＶ会社へ出向

二度目の海外勤務は、１９９１年、カナダのジョイント・ヴェンチャー（ＪＶ）会社ＡＥＴ社への出向でした。この会社は、日本側はＮＴＴと三井物産、ＮＥＣ、ユアサ電池、カナダ側はモリ・エナジー社が出資のリチウム電池の開発会社で、社員の国籍は、カナダ、日本、ドイツ、オランダと多彩でした。私は３年の就労ビザを貰えましたが、会社が傾き一年余りで帰国し＜企業は資金繰りが出来ない場合倒産する＞ということを、身をもって悟りました。趣味の旅行では、イタリアの客船でアラスカ・クルージングを楽しみ、またカリブ海の島国ジャマイカにブルーマウンテン・コーヒーを買出しに行きました。

３）「本格的な」海外勤務その１：チリ（ＪＩＣＡ訓練センタープロジェクト）

カナダから帰国し約４ヶ月後の１９９３年春、「チリ・デジタル通信訓練センタープロジェクト」のＪＩＣＡ専門家（チーフアドバイサー）としてチリへ派遣されました。当時、パラグアイとパナマにも同種のプロジェクトが走っており、三国間の技術交換のため、私はチリ人カウンターパートと共にパナマに行く機会に恵まれ、初めてパナマ運河を目にしました。今回のパナマ赴任は、以来１７年ぶりとなります。

チリのＪＩＣＡプロジェクトは、終了３年後に有識者（上山信一教授）による評価が行われ、「ＮＰＯ経由の援助のユニークな成功例」と評されました。十数年後の現在に至るまで、センターＯＢによる日智交流が続いているのは嬉しい限りです。

またチリでは、１９９４年にＮＴＴ研究所とチリ大学との間で研究協力協定が締結され、共同研究プロジェクト「アクセスノバ」（チリのＢ−ＩＳＤＮ開発計画）が始まりました。その後、研究領域や提携先を拡大し「フォーラム」形態へと発展、現在に至っています。

チリでの専門家時代は、「趣味と実益」のシナジー効果を十二分に発揮し、チリ国内の「北のペルー国境から南はマゼラン海峡まで」を巡り、海外では「ガラパゴス諸島」、「ナスカの地上絵やマチュピチュ」、「イースター島やタヒチ」などを踏破しました。

チリ・デジタル訓練通信センター（1993）

18 年後のセンターOB&OG 会（2011）

４）「本格的な」海外勤務その２：ブラジル（ＮＴＴ海外現地法人代表）

１９９８年末に再び南米へ。ＢＲＩＣＳの筆頭「未来の大国」ブラジルへの赴任でした。

ブラジルは「危ない」国で、防弾仕様の車に運転手付で乗ることができたのも「貴重な経験」でした。夜のサンパウロの交差点を赤信号でも止まらず何度も走り抜けました。

ブラジルの約５年間の仕事は、前半は「ビジネス拡張期」、後半は「リストラ期」とでも呼べます。数度のリストラを行った後半は「地獄のような」時代で、当時副社長のＳ君などは、ストレスが眼に来て物が二重に見えるほどでした。幸い私はストレス発散方法を「本能的に」身につけており「良好」な体調でした。夜遅い本社との電話会議を終えた後、零時過ぎに「危ない」サンパウロの街を彷徨し、美酒と美女にストレスを溶かしてもらう「酒とバラの日々」も送ったことを、夢のように思い出します。

さて趣味の方は、一時帰国時、欧州周りで日本に帰国し北米経由でブラジルに戻る「世界一周旅行」を二度決行しました。ポルトガル、リスボンのアルファマ地区で本場のファドを楽しんだのもこの頃です。http://www.youtube.com/watch?v=Uaue1QEqAek＞

♪Quando Lisboa anoitece　　リスボンの日暮れ時
Como um veleiro sem velas　　帆をなくした帆船のように
Alfama toda parece　---　---　　アルファーマは　こう見える---＜中略＞
Alfama não cheira a fado　　アルファーマはファドの匂いがしない
Mas não tem outra chanção.　　でも　ほかの唄を持ってはいない♪

二度目の一時帰国では、トルコのイスタンブールに立寄り、念願のボスホラス海峡を見ることができました。エセーニンの詩を巻頭に飾った五木寛之のバロックロマン小説『四季』は、『奈津子』に始まり『亜紀子』で終わりましたが、最後にイスタンブールでボスホラス海峡を見たのは布由子で、こんな風なエンディングでした。

『＜わたしはいま、たしかにボスホラスの海を見たのだ――＞　……
私は生きている、と布由子は思った。　(完)』

NTT ブラジル社員勢揃い

今は無き*ボアッチ「ヴァゴン」*

時が経ち、チリへの二度目の赴任のチャンスが訪れました。先述の「アクセスノバ」が１２年後ビジネスへと結実し、チリ銅公社とのＪＶ会社（ＮＴＴ開発の高速光伝送やＩＰ無

線技術の鉱山への適用サービス会社）を設立することとなり、声がかかりました。

５）再びチリへ：チリ銅公社（ＣＯＤＥＬＣＯ）とのＪＶ会社へ出向、単身赴任

２００６年約１０年ぶり二度目のチリは、結婚２５年目初めての単身赴任で、慣れるまで多少苦労しましたが、今度のパナマ単身派遣の「練習」になったことだけは確かです。

新会社Ｍｉｃｏｍｏ（ミコモ）社での任務は、会社が軌道にのるまで、日本人とチリ人の間で「何でも屋」として支援することでした。ヘルメットを被り、安全靴を履き、現場の銅鉱山（チュキカマタの露天掘り鉱山や他の地下鉱山）に調査に出かけました。

和田ＮＴＴ会長の絶大なるサポートもあり、Ｍｉｃｏｍｏ社は３年目に黒字達成見込みとなり、私の用もなくなり、約２年の駐在で帰国しました。

Ｍｉｃｏｍｏ社事務所の目の前には、大統領官邸「モネダ宮殿」があります。ここは、「もう一つの９．１１」１９７３年９月１１日、ピノチェト将軍の軍事クーデターによりロケット砲で爆撃され、アジェンデ大統領が死亡した場所として歴史に名を留めています。

チリ国内では、アタカマ高地にも出かけました。標高５，０００ｍの所にＡＬＭＡ（アルマ）と呼ばれる、直径１２ｍと７ｍのパラボラアンテナを計３０台並べ、それらを動かして観測する巨大な「電波望遠鏡」が建設中で、２０１１年本格運用開始予定です。ＡＬＭＡとは「アタカマ大型ミリ波サブミリ波干渉計」の略で、東アジアの日本と台湾、北米の米国とカナダ、欧州十四カ国が参加する大規模な国際共同プロジェクトです。

モネダ宮殿

チュキカマタ鉱山のトラック前

ALMA

仕事の合間をぬってキューバに出かけました。チリのＬＡＮ航空は、週一便ハバナまで直行便を飛ばしています。キューバ滞在中、どこに行っても聴かせられる歌がありました。１０年ほど前に流行ったブエナビスタ・ソシアルクラブの、こんな曲です。

＜http://www.youtube.com/watch?v=UhHWhRTkVBE＞

♪De alto Cedro voy para Marcané ---　アルトセロからマルカネーへ---＜中略＞
Cuando Juanica y Chan Chan　　ファニーカとチャン・チャンが
E el mar cernían arena　　ビーチで砂をふるいにかけていたとき
Como sacudía el “jibe”　　ファニーカの尻が見事に揺れたものだから
A Chan Chan le daba pena. ---　---　チャン・チャンは興奮しちまった--- --- ♪

この「キューバらしい」歌詞の曲を何度も聴き、キューバの元気な爺さんたちと仕掛け人

ライ・クーダー（米国人音楽家）の影響の大きさを改めて実感しました。
　ヘミングウエイが好んだラム・カクテル「モヒート」と「ダイキリ」を飲みに、ハバナ旧市街のバール「ボデギータ」と「フロディ―タ」にも通ってみました。

キャバレー「パリジャン」入口

ハバナの支倉常長像

キューバの女と男

　ソ連製の凄い飛行機で東部のサンティアゴ・デ・クーバに飛び、昼は革命の原点を辿り、夜はキューバ音楽を堪能しました。＜キューバのソンは、ブラジルのサンバと共に、アフリカの影響を強く受けており、太鼓で踊りだすヨルバの神様の名前も同じだ＞など、どうでもいいことに感激した、快適な旅行でした。

３．おわりに：ラテンに魅せられて
　「ラテンアメリカの魅力は何か」と問われれば、かなり本気で「女とお酒と音楽です」と頭韻を踏みながら答えたいのですが、それでは身も蓋もなく、格好よくありません。そこで斜に構えて「趣味は海外旅行と読書」と申し上げた次第です。
　「読書」の方では最近、渡辺京二の『逝きし世の面影』に感銘しました。幕末から明治初期に駐在した外国人の記述の徹底的な研究に基づき描き出す、素晴らしき日本の風景、日本人の自然な美徳を語る説得力に、最新作『黒船前夜』以上に圧倒されました。これはＮＴＴ退職後、「通訳案内士」の修行として、日本の歴史や文化を学び直すため、色々な本を読み漁っていた時の収穫です。この修行は、パナマ行きのため中断せざるを得ず、インバウンド（日本国内）業界での私のデビューは先送りとなりました。
　なお、タイトルを「ラテン」としたのは、ラテンアメリカに限らず、将来関わってみたいフランス語圏、ポルトガル語圏の「ラテンアフリカ」をも視野に入れた広義の「ラテン」を意識してのことです＜浮気者の大法螺です＞。日本のアフリカ関係者の間では「一度アフリカの毒を吸った者は、またアフリカに戻りたくなる」という言葉が広く言われていますが、ラテンアメリカの場合も似たようなことが言えます。ただ、ラテンアメリカの毒は甘美過ぎるため、日本に帰らなくなる人も多いようです。
　そんな訳で、再びラテンアメリカの毒を吸いに行って参ります。最後まで口数の多い「ラテン」男に、今後ともご指導、ご鞭撻、お叱りの程、よろしくお願い申し上げます。
　（一般旅行業取扱主任者：02-1059 号、スペイン語通訳案内士：東京都第 SP00229 号）

最近のタイ事情

タイの最新情報

本会事務局　加藤　隆

７月４日（月）から９日（土）までタイのバンコックに参りました。

主たる目的は５年前、ＪＩＣＡシニア海外ボランテイアとして派遣された国立ラチャモンコン工科大学（サラヤ）で、恒例となった特別講義をすることで、序でにタイの近況に関する情報を集めました。特に今回は７月３日に実施された下院選挙直後ですので、その余波を実感したいと思いました。

下院選挙結果とその受け止め方

７月３日行われた下院選挙は投票率７５％で、国民の政治に対する関心の高さを示している。そしてその結果は５００議席のうち、タクシン派のタイ貢献党が２６５議席で過半数をしめ、民社党１５９議席を圧倒しました。新与党は６党の連立で出発することとなるとのこと。

私は選挙の次の日にバンコック入りしたのですが、心配されたデモ等は一切なく、何事もなかったように全く平穏でした。これはタイ貢献党の優勢が予想されており、プラユット陸軍総司令官は「いずれの党であれ、軍は政権の命令に従う」と述べ、軍事介入する考えのないことを強調したこと（軍とタクシン派が事前に根回しをしたとの噂もあり）、国王がとりあえずは選挙結果を容認したとの観測があったこと。国民がもうデモによる暴動はこりごりだと思っていること、等があげられる。

しかしこれは嵐の前の静けさで、何が起こるか誰も予想できないとの憶測もある。そしてその兆候が出始めてる。その一つは民社党が選挙違反のかどでタイ貢献党を訴えると公言している。一人でも選挙違反者があった場合、その党は解散となるとのこと（タイ貢献党はその非常時に備えて、受け皿となる党を準備しており、その場合には議員が大挙その党に移籍するとのこと）。また国王は、入院中の病院において、各県に赴任する判事の就任宣誓式において、「人間にとって闘争はまれではなく、判事は中立を維持しなければならない」と訓示しており、これには含みがあるように感じられる。

新政権に対する期待と不安

６党連立政権構想に対する世論は次のようである。私立アサンプション大学の世論調査によれば、賛成５５％、反対２７％であり、タイ国民が幸福と感ずる幸福指数も選挙前（5月）の５．２８に対して､選挙後は７．５５と急上昇している。またタクシン派大勝で政局が安定するとの観測からか、選挙翌日のタイ株は４．７％上昇し外資導入も増えた。また北部・東北部では家に今まで飾った国王と王妃の写真の代わりにタクシンの写真を掲げた家庭も数多く見受けられるとのこと。それは最低賃金を３００バーツに引き上げ（これはこの地方では倍に近い金額になる）、一人一件当たりの病院の治療費を３０バーツにするとの選挙公約を掲げたことなどによるものと思われる。

しかしこの賃金上昇は現地の日系企業をも含めて、特に中小企業にとっては大きい痛手であり、産業界から早速不服が出ている。それに対し、その見返りとして現在３０％の法人税を段階的に２０％まで引き下げるとしているが、どのような結末になるだろか。

また現在国外に逃亡しているタクシン氏は帰国を望んでいるが、同氏に対する恩赦などをたちどころに行えば、反対派を刺激することとなろうと危惧される。

日本との関係

タクシン氏の実妹インラック氏が次期首相と目されている。新政権も経済活性化を計ることから外国企業の誘致政策を積極的に推進するだろうし、海外からの投資の４割以上を占める日本が彼女の最初の外国訪問国だと側近は話している。事実日本企業のタイ投資は止む気配はなく、工業団地は活気を呈し、日本からの渡航者数は増加している。（逆にタイから日本への渡航者数は大震災の影響のためか大幅に減少傾向。また日本の産業空洞化の加速が懸念されるが）

日系企業が支え、順調に成長しているタイの産業界は直ちに大きく変わることはないと思われるが、ただしタクシン自身は華人そのものであり、日本よりは遥かに中国を向いていると思えるので、より中国寄りの政策になることが危惧される。

ＪＩＣＡ筋によれば、タイ政府からのボランティアによる技術支援の要請案件は、高齢者や身体障害者等社会的弱者支援、及び競争力強化のための産業振興支援（観光・工業日本語を含み、日系企業の支援にもなる）とのこと。いずれもこのようなことを中心となって行える人材育成ですが、要請案件は「選択と集中」とのことである。

（２０１１．７．２６）

注；８月１日に下院の開会式が行われ、８日にインラック氏が国王により首相に承認され、首相に就任しました。

お知らせ

事務局

当会ホームページの一時不具合について

現在当会ホームページは何者かに攻撃を受けて不具合が生じております。現在鋭意修復に取り組んでおりますので、近く修復しますが、その間皆様に迷惑をおかけします。現在は暫定的に旧版を掲載しております。ご了承ください。

JICA「メールマガジン配信登録」のおすすめ

事務局

当会顧問・ＪＩＣＡ青年海外協力隊事務局募集課長 佐藤　睦氏からのおすすめです。

ＳＶおよびＪＯＣＶ募集案内等情報満載の「メールマガジン配信登録」をしてください。きっと皆様のお役に立つと思われます。

手順は次の通りです。

① Internet Explore で「JICA」を検索
② 「JICA-国際協力機構」を選択し HP を開く
③ 右手の JICA ボランテイアをクリック
④ 情報満載メールマガジンをクリック
⑤ メールマガジン配信登録をクリック
⑥ 所定の個人情報を記入

- (http://www.jica.go.jp/volunteer/index.hotmail)

会報お読みの方々へのお願い

本会の拡充と共に、会報の充実も計ろうといたしております。

それで会報をお読みになった皆様のご感想、ご意見、ご要望は、会報作成のみならず、本会運営に当たっても大きな方向付けに役立ちます。どうぞ遠慮なくお送りいただきますようお願い申しあげます。

送付先は、編集部　加藤隆(kato2415@jasmine.ocn.ne.jp) ,または
村上勝臣(katsumi.murakami@jcom.home.ne.jp)までお寄せ下さい。

編集後記

・ 巻頭言として北川泰弘氏から「海外で活躍できる人材育成」をご寄稿いただきました。多くの優れた人材を育てられた経験から寄稿です。また会員リレー寄稿を石井誠一氏からいただきました。石井誠一氏の豊富な経歴は人材育成のモデルのように思われます。

・ 石井　孝氏から、民営化したＮＴＴの初代社長でした真藤　恒様の「教え」を解説していただきました。ずしんと重みのある語録です。今後もシリーズとしてご寄稿をお願いできればと考えております・

(以上 加藤)

・久しぶりに青年海外協力隊隊員、中川さんからウズベキスタン便りを寄稿いただきました。ヘミングウエイの文章の如く要領よく簡潔に纏めてもらいました。中川さんのＷＥＢページをのぞきましたが、さすがコンピュータ技術者らしく盛りだくさんの情報を読みやすく掲載されていたのが印象的です。業務終了後の報告を期待しています。

(以上　村上)

総編集長　：ICT 海外ボランティア会　事務局長　加藤　隆
編集長　：ICT 海外ボランティア会　報道部長　　村上勝臣
発行　　：ICT 海外ボランティア会　(メール：sv@info.nttob.org/)